

【経営学部国際デザイン経営学科】

卒業認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、社会に貢献する力、国際的な視野を持った人材の養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、本学科で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士(経営学)の学位を授与する。

1. グローバル化や地球環境問題など広範かつ多様なビジネス環境で発生している諸々の問題に対して、自然科学及び人文社会科学の知識を活用して解明するという基本的方針の下で理論的かつ実践的な考え方を身に付けている。
2. 各分野毎に設定された専門領域科目を包括的に学び、自ら設定したテーマに関して、専門知識を社会で活用できる能力を身に付けている。
3. オープンなマインドを持ち、グローバルな視点と多様性を尊重し、失敗を恐れずに、失敗から学ぶ柔軟な姿勢を身に付けている。
4. デジタル技術に対する原理的な理解を持ち、デジタル技術を用いた問題解決を先導することができる。
5. 「自らの表現の創造性に対する自信(クリエイティブ・コンフィデンス)」を有し、それを多様な形式で表現するマインドおよびスキル、知識を身につけている。
6. 経営理論に関する基礎的知識や概念に基づき、分野横断的プロジェクトに貢献できる能力を有している。
7. 必要な単位を取得し、キャリア教育によって社会人としての意識、コミュニケーション力及び合理的に判断する力を備えている。
8. 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的に物事を俯瞰できる能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学の精神と、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造」という教育研究理念に基づいて、定量的および定性的なアプローチにより、経営・経済活動及び人間行動を解析・理解するための科学的理論体系と分析手法および表現方法を教育するとともに、他専門分野あるいは異文化に属する人々とも積極的に協働し、社会の発展に貢献できる人材を育成するための教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、国際性、コミュニケーション能力、他者と協働し創造する力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、社会に貢献する力、キャリア形成力、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
5. 「一般教養科目」では、自然・人間・社会を幅広く俯瞰できる能力、判断力・行動力、自己管理能力を養う授業科目を配置し、初年次から上級学年まで継続的に学修できる有機的な教育課程を編成する。
6. 英語教育においては、少人数クラスや習熟度を考慮したクラスを取り入れ、「専門科目」にも英語による講義科目を数多く配置し、更に進級要件として外部テストスコアの条件を課すことで、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行い、文化や背景を超えてコミュニケーションできる能力の育成を図る。
7. 「基礎科目」では、初年次より「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」、「関連専門基礎科目」の授業科目を効果的に配置し、基礎学力を強化した上で、「専門科目」との接続を図る。
8. 「専門科目」では、少人数による効果的な学修を進めるために2年次からゼミナールを履修し、必修科目の他に「国際系」、「デジタル系」、「デザイン系」、「経営学系」という4分野の科目を自ら選択しながら組み合わせることで自身の専門分野を深化させ、併せて他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、問題発見・解決能力の育成を図る。
9. 必修科目および英語外部テストスコアを主とした関門制度と卒業研究着手要件を設定し、学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究を配置する。
10. 専門分野を超えて幅広く関心のある科目を履修できるよう、他学部・他学科間の履修や大学院科目の先行履修を可能とし、学生の学習意欲の向上を図り、多様な学習ニーズに応える教育課程とする。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

1. 高等学校段階までの学習内容を十分理解し、正しい倫理観と豊かな人間性を備え、自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための創造的・知的活動に対して高い学習意欲を持った人。
2. 自立心旺盛で、将来広く国内外で活躍しようとする意欲のある人。グローバル人材の資質である英語でのコミュニケーション能力・人間力の習得にも関心を持つ人。
3. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験(英語、国語、数学)の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験(数学)と大学入学共通テスト(国語、外国語)の得点を用いて選抜する。

(グローバル方式入学試験)

学科の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、独自の学力試験(数学)と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

(学校推薦型選抜(指定校制))

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(総合型選抜(英語資格検定+特定教科評価))

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲と国際的な視野を持つ本学を第1志望とする人を、書類審査、英語の資格・検定試験の成績、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

(帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験、国際バカロレア入学者選抜)

海外や国際バカロレア教育プログラムで身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、資格・検定試験の成績、書類審査、小論文、面接、口頭試問等により選抜する。